

銅・アルミ

市況見通し

7月

銅

5月の伸銅品生産は同6・4%減の4万3500トで、うち国内が同6・5%減、輸出が同4・8%減だった。1年前の実績を上回ったのは、14品目中5品

目のみだった。

5月の銅電線出荷量は同6・4%減の4万3500トで、うち国内が同6・5%減、輸出が同4・8%減だった。

銅輸出は、電気銅が同17%増の5万451ト、銅スクラップが同29・8%減の2万5396ト。銅輸出は内需の堅調に伴い減少した。

銅輸入は、電気銅が同739%増の709ト、銅スクラップが同30・2%増の1万4486トだった。

銅輸入は、内需の堅

橋本アルミ取締役 橋本 健一郎氏レポート



7月銅市況予想レンジ

LME銅セツルメント	7000~9000 ^F ドル	弱い
電気銅建値	97~129万円	弱い
為替(1 ^F ドル)	133~139円 (1カ月間TTM)	円安

銅スクラップ景況予想

電気銅建値は6月上旬の136万円から足元の113万円に急落。

前月に続きコロナによる生産減に伴うスクラ

ップ発生減により、出物が無く在庫薄となっている。

需要面では上海のロックダウンによる部品

調達の遅れに伴い、自動車生産および販売は大幅な減少傾向となっている。ただ、伸銅品は、一部品目でリモートワークに伴う需要減となっており、全体としては旺盛な状況にある。

上海のロックダウンは6月から解除されたが、一部では再度のロックダウンとなった。

このためメーカーの高値買いの傾向は緩むのではと見ている。

LME銅・為替予想

今月は「米国の金融政策」「中国・ロックダウン再開中の動向」に左右される。

前者は、米国に続いて英国でも利上げが決まった。利上げの幅は米国を上回る1・25%だったことやLRB

長やECB(欧州中央銀行)総裁のタカ派発言から、まだまだ利上げスタンスは続くと思われている。

後者は、6月1日に上海のロックダウンが解除されたものの一部で再開されるなど先行きが不透明。一方で、季節はずれのインフルエンザが流行するなど、ロックダウンは今後も続きそうな状況となっている。

5月のアルミ圧延品生産量(板類・押出類合計)は同1・2%減の15万3141トで2カ月連続のマイナスだった。生産量は板類が同微減の10万2126ト、押出類が同3・6%減の5万1015トだった。

アルミ

5月のアルミニウム二次合金・同合金地金生産は同12・4%減の5万2564ト(9カ月連続の減少)。出荷は同13・4%減の5万

2312ト(9カ月連続の減少)だった。輸出はアルミ新地金が同3・1%減の126ト、アルミ二次合金が同37・8%増の1718ト、アルミスクラップが同9・6%減の2万6593ト、アルミ缶が同3・2%減の6664ト。

アルミ輸出は、自動車生産の減少や円安を受けてアルミ二次合金が増加した。

輸入はアルミ新地金が同7・1%増の12万

4829ト、アルミ二次合金が同2・7%減の8万9968ト、アルミスクラップが同102・3%増の605ト、アルミ合金スクラップが同133・7%増の8227トだった。

アルミ輸入は、自動車生産が減少する中、アルミ二次合金以外は増加した。

アルミスクラップ景況予想

アルミスクラップ景況予想

欧米の金融引き締め策に伴い、LME価格は2400~2800ドルと急落した。ただ、自動車生産減により売りにくく、流通(二次問屋)の入荷も少ない見通し。

需要面は、上海のロックダウン解除の時期が不透明なことからスクラップの需給は緩みそう。上物は巣ごもり需要一服で、こちらも需給が緩和すると見ている。

7月アルミ市況予想レンジ

LMEアルミ現物後場買い	2100~2400 ^F ドル (現物後場買い)	弱い
スクラップ	マイナス5~マイナス10円 (前月最終価格より)	弱い